

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

『思いが込められた税に救われる希望や命』

町田市立山崎中学校 3学年 田淵 木乃華

二ユースで耳にしたり、買い物をした時に目にする「税」という言葉。よく見聞きしているにも関わらず、あまり興味がなく、ただ大人が国に支払うお金としか思っていなかった。

そんな私の「税」という言葉に対する意識が変わった出来事がある。それが、世界中がパンデミックになった「新型コロナウイルスの大流行」だった。当時、私は小学校三年生、学校や習い事も休校、休止になり、マスクや手洗いが徹底され、日常がすっかり変わってしまった。不安な日々が続いていた時、テレビで新型コロナウイルスの検査、治療薬、入院費が公費になりますという報道が流れた。つまり、税金が使われるということだった。

その後、私自身感染症にかかり、病院を受診した。一緒にいた母は支払いをせず、薬を受け取ってきた。テレビで報道されていた内容は本当だったのだと実感した。私は税金によって助けてもらったのだ。

このような誰かを救う税は、日本国内だけに使われているのではなく、アジア・アフリカの発展途上国の支援にも使われていると

知った。ODA（政府開発援助）という組織が、途上国の安全な水の供給や予防接種の体制整備、農村開発等を行っているそうだ。実はその財源の一部は、日本国民の税金から賄われている。ODAの目的は「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じて、我が国の安全と繁栄の確保に資すること」で、日本の利益にも直接つながる事を前提にして設計されている。決して日本国民が損をするわけではなく、日本の税金は世界でも役立てられている。

あまり興味がなく、どこか他人事であった「税」、しかし、自分の体験などで税は、誰かを救う、誰かの役に立つものと分かり、関心を持てるようになった。

税金には〈希望や期待、良化〉の3つの思いが込められており、そして、それに対して〈受け止める、努力する、感謝する〉という恩返しが続いていると思う。私は、まだ思いを込める側ではなく、恩返しをする立場にある。どうやって受け止めるかは人それぞれだ。私は感謝する気持ちを持ちたいと思う。それには子どもだからと知らないふりをするのではなく、関心を持つ努力も大切だ。将来、納税する時は、思いを込める側になる。自分の納めた税が誰かの希望になったり、命を救うかもしれない。将来を担う私達はその使命を託されている。私は社会の一員をして、税についてこれからも考え続けていきたい。